

第57回国立大学図書館協会総会ワークショップA 議事要旨

日時：平成22年6月18日（金）15時～17時30分
会場：札幌パークホテル ホールA・B
テーマ：今後の大学図書館の業務運営の在り方について
司会：野家啓一（東北大学附属図書館長）
司会補助：片山俊治（東北大学附属図書館事務部長）
記録：藤原健二（岩手大学情報メディアセンター図書館情報メディア課長）
加藤信哉（東北大学附属図書館総務課長）

第1部

【事例発表】

1. 木村優東京大学附属図書館総務課長から「国立大学法人の図書館運営業務等への評価の総括（国立大学法人分科会）について」と題して、公共サービス改革小委員会国立大学法人分科会が評価した国立大学法人の図書館業務の要点等について、進行中のものを含めて報告が行われた。
2. 大場高志一橋大学附属図書館学術・図書部長から「国立大学法人分科会のヒアリングについて」と題して、国立大学法人分科会からヒアリングを受ける際に準備した資料（発言要旨メモ、想定問答、発言メモ等）に基づき、実際のヒアリングの状況等について報告が行われた。
3. 井村進日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館長から「アジア経済研究所図書館官民競争入札始末記」と題して、市場化テストの対象となった経過、実施要項、入札手続及び市場化業務の現状と各々の問題点等について、報告が行われた。

【パネルディスカッション】

事例発表を踏まえ、事例報告者3名及び参加者により、内閣府の公共サービス改革の評価結果と問題点及び課題についてディスカッションが行われた。主な意見は次のとおりであった。

- ・ 派遣職員により経費節減を図っているが、図書館における人材育成及び専門性維持の問題を抱える中で、一層の経費削減によって、派遣職員までも減らさざるを得なくなるのではないか。
- ・ 質の高い民間業者への選択は難しく、派遣会社に大学の教育・研究方針等への深い理解を求めるのは、適切ではないと考えている。
- ・ 本来図書館職員のやるべき仕事と業務委託に任せられる仕事の線引きは難しい。複数年契約といいながら、数年後には違う民間業者に変更になる状況があれば、図書館業務への専門的な精通は難しい。
- ・ 先行して民間委託を行っている私立大学から、委託後も常にサービスの向上や一定の業務に対する円滑な取組が求められており、残った人材の育成を含めて非常に厳しいものがあると聞いている。
- ・ 国立大学では今後一層の業務の見直しを進めていかなければならないが、能力の高い業者に通常の経費で委託できるか、疑問がある。

- ・ 公共図書館や私立大学の図書館において、民間委託が進んでいるということは、それだけ標準化されたマーケットが形成されていると考えられる。質の高い業者がいるのかという問題に対しては、いなければならないのではないかと考えている。
- ・ サービスの質を落とさず、機能はそのままにすることを前提とし、現在行っている仕事の形を変えていく。また、「なくす」という観点から市場化テストに馴染む業務を切り分けていくことを考える必要がある。
- ・ 学術情報流通基盤整備の在り方が根本的に変わることはないが、新たな情報技術の在り方への図書館の対応は、常に課題であると考えている。

第2部

【事例発表】

1. 能勢明雄大分大学学術情報拠点学術情報課長から「大分大学学術情報拠点（図書館・医学図書館）の業務委託」と題して、業務委託の背景、実施内容、具体的な効果及び今後の課題等について、報告が行われた。その際、業務委託の成功のポイントとして、問題意識の共有と業務上の齟齬を回避する目的で開催される業務委託事業者との定例ミーティングの実施について補足説明があった。
2. 三宅育夫愛知教育大学附属図書館情報図書課長から、「図書館業務のアウトソーシング事例」と題して、業務委託の背景、実施内容、具体的な効果及び今後の課題等について、報告が行われた。その際、業務委託の背景として、資料に掲げるもののほか、附属高校等で発生した不審者による事件をきっかけとして、学生アルバイト等の雇用を安全管理の観点から見直した旨の補足説明があった。

【パネルディスカッション】

事例発表を踏まえ、事例報告者2名及び参加者により、業務委託を含む今後の大学図書館の業務委託の在り方についてディスカッションが行われた。主な意見は次のとおりであった。

- ・ 業務委託をする際の業務のパフォーマンスをどう見るかは非常に難しい。
- ・ 金銭的な面から言えば、業務委託よりも学生アルバイトを活用する方が良いのではないか。
- ・ 学生アルバイトは、質の保証が難しく、安価な金額で雇用できるが、安全管理の観点から除外した。
- ・ 学生に責任ある仕事を任せることで社会に出たときの訓練になることもあり、積極的に学生の力を活用している。
- ・ 学生に図書館で業務をして貰うことを学内インターンシップ、キャリア教育の一環として位置づけしている。学生の雇用は業務上の負担もあるが、経費の削減、効率化にも貢献していると考えている。
- ・ 業務委託の場合、トラブルが起こった場合、仕様書に書き込めなかったことについては、図書館職員にしわ寄せが来ることになるのではないか。
- ・ 問題意識の共有と業務上の齟齬を回避することを目的として、業務委託事業者との定例ミーティングや相互のチームリーダーを通しての話し合いを行う

ている。

- ・ 非常時については、委託事業者のフロントを通して対応している。
- ・ 業務委託を派遣に変更した経緯があるが、図書館の閲覧業務などは、通常の請負業務と相違する面もあるので、指揮・命令に関して、必ずチームリーダーを通さなければならないかについては、多少疑義がある。
- ・ 外国語能力の必要性及び専門的知識の特殊性から、一般業者はなかなか入札に参加できない状況があった。その後、目録業務及びカウンター業務の委託業者が変更になり、業務の改善が見られた。一方、今後、業者の変更による業務レベルについて不安もある。
- ・ 「図書館運営も民間委託すべきところは、民間委託すべき」を考える際に、民間委託、業務の効率化、経費の削減が1つの論理で議論されているように思う。大学の置かれている状況によっても相違するはずなので、それぞれ別な問題であるということを国立大学図書館協会として訴えていく必要があるのではないか。
- ・ 情報系の職員と一緒に仕事をしていく上で、また、図書館職員に専門性のある人材を確保していくためにも、専門性とは何かについて考える必要がある。
- ・ 今回の市場化テストの問題では、図書館職員の専門性が改めて問われたと感じている。これまで図書館職員は、司書資格を有し図書館に習熟した組織の中で業務を行ってきたが、情報技術の進展に伴い、従来の専門性が多様化してきている。
- ・ 図書館は、情報を求めてきた人と情報を繋ぐ役割を担ってきたが、それが情報のデジタル化と共にウェブ産業が進出することで、今まで図書館がそのコミュニティの中で独占してきたものが崩れてきた。このことで、改めて専門性が問われてきたのではないか。
- ・ 業務委託においても、専門性がある部分を業務委託するという考えもあれば、専門性がない部分を業務委託するという考え方もある。
- ・ 大学のミッションをフォローする業務を行うのが専門性のある職員だと考えている。
- ・ 図書館職員の専門性を情報系の業務や図書館を使用する授業への対応等、需要に応じて、これまでのノウハウを図書館職員が如何に活用できるかが大切である。

まとめ

司会補助者から、本ワークショップにおいて、「市場化テスト」をキーワードとして議論したが、「図書館運営も民間委託すべきところは、民間委託すべき」という評価に対しては、それが本当に経営改善に繋がるのかとの疑義があること、コスト面を考えると学生の活用もあり得ること、それぞれの大学の事情に応じて取り組む状況が違ふこともあり、今後、この問題に関しては、国立大学図書館協会として取り組んでいく必要があるのではないかとこのまとめが述べられ、ワークショップを終了した。